自己評価および外部評価結果 平成29年 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所や廊下、エレベーター内に掲示し、毎日目に出来るようにしている。利用者、家族、近所の方などなたに対しても丁寧に対応するよう心掛けている。	一昨年、外部評価にて、理念の再確認の促しがあり、話し合いの結果、再び同じものを継続している。年1回のアンケートや、利用者、家族の満足度の向上に向け、会議等で検討しながら意見を取り入れている。理念は廊下、エレベーター内等、常に職員の目に触れる所に掲示して、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	実習生やボランティアの受け入れも積極的に行っている。 樹木の消毒など地域の方が回ってして下っている。	市内中学生の福祉体験や、ボランティアの受け入れを毎年行っている。近所の方が季節の野菜を届けてくれたり、外に出ると、声を掛けてもらうなど、自然と付き合いが出来ている。夏祭りや雪像祭り時には、誘いのチラシが届き、出掛けている。防災訓練時は、近所からの駆けつけはないが、見守りをしてもらう等、交流が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会や見学に来られた方の疑問に答えたり、福祉体験に来た中学生に利用者への対応の方法を話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際を報告し、意見をいただいている。その意見と市や町内の情報を聞かせていただく事がサービスに活かされている。	運営推進会議は隔月に開催している。民生委員、介護保険係、地域包括支援センター職員の参加があり、家族は1年毎の交代としている。利用者の参加はないとのこと。骨折等の事故報告や、インフルエンザの情報提供等、事業所の活動報告も含め、意見を頂きながら利用者のサービス向上に繋げている。	運営推進会議は計画的に開催され、会議記録の記載もある。家族、民生委員、市職員等の参加があり、開催状況は良いが、形骸化された会議運営だけではなく、利用者の表情や言葉から、意見、要望を汲み取れるよう、時には利用者が会議に参加出来るよう、工夫されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域のケア会議などに参加をし、ケアについての情報交換や研修を行い、こまめに、報告や相談をしている。	運営推進会議に、市の介護保険係、地域包括支援センター職員の出席があり、事業所の状況報告等を通して、情報の共有を図っている。また市主催の研修会、ケア会議等に出席し、情報収集に努めている。時には困難事例の相談、助言を頂き、サービスの向上に向けた、協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が禁止である事を職員全員で理解し、玄関など施錠をせず安全を保てるようにセンサーを利用したりしながら取り組み、再度社内研修で理解を深めている。	身体拘束についてのマニュアルが作成され、年1回、内部研修を通して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外部研修に参加した職員が会議時に伝達し、全職員への周知を図っている。転倒、骨折等の事故防止上、センサーマットを使用している。書面での取り扱いは無いが必要性を丁寧に説明し、家族の理解を得ている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の外部研修に業務として数名参加して、その資料を回覧して疑問や気づいたことはいつでも話し合っている。	虐待防止マニュアルが作成され、外部研修に参加時の資料を職員に回覧している。内部研修については、今後の2月を予定し、全職員への周知を図っている。虐待原因の一つにも挙げられている、職員のストレス面への取り組みについては、管理者が個別に面談、聞き取り、精神面からも虐待防止に向けた取り組みが行なわれている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度、自立支援事業を利用された方がおり、学ぶ機会を持つことができた。それを踏まえ再度職員が制度に関する理解を深め、必要な方に対応できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や料金改定などがあつた場合は、内容が理解されやすいように丁寧に説明し、同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時など、家族から話しを聞かせてもらい、意見、要望は職員間で共有している。また家族へのアンケートでも意見をいただいている。	面会時、状態報告等の会話を通し、要望を聞く機会としている。家族との関係性は良く、協力的であるが、時には遠方に住む親族より、意見を頂くことがあり、要望に添えるよう努力している。年1回アンケートを実施し、自由記載欄を設け、出された意見は玄関付近に掲示し、外部者や家族が何時でも閲覧出来るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全職員で行う会議の後、常勤者と代表者、管理者で会議を行い、職員の意見等を聞き反映させている。	毎月20日は会議の日と決め、2施設合同での職員会議や、経営会議、運営会議を1日の中で効率的に行っている。会議の中で協議検討した内容は、可能なものから早目に取り上げ、現場へ返している。最近では人員に関する意見、要望を取り上げてもらい、増員を図る等、組織として聞く体制が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員が向上心を持って働けるよう、勤務希望にも柔軟性を持って調整出来るよう努め職員の資格取得に向けた支援も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修会や学習会には多くの職員が参加出来るよう機会をもうけ、内部での研修も毎月実施している。毎日の業務の中でもお互いに教えあっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流会や勉強会に参加し、日頃のケアの悩みなどを話し合い、他のホームの工夫などを取り入れていけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からのお話だけでなく、本人の様子を見ながら困ったり、不安になったりしないように細やかに対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの段階からご家族の困っている事、不安な事、求めている事などをじっくり聞きご家族が安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が今一番何を必要としているかを見極め、グループホームだけに留めておかず、地域包括支援センターや他の事業所等と連携しながら、必要なサービスが使えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したり、たたみもの、テーブルふきやおしぼりを一緒に準備したり、職員の知らないことを教えていただいている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に職員とご家族とのかかわりが少ないように思えるので、普段の様子を細かくお伝えして、ご家族ともコミュニケーションを取り、一緒に本人を支えていくように努めています。	協力病院の受診は職員が対応し、他は家族が通院支援を行っている。その際、利用者情報を記載した「受診カード」を用意して、受診がスムーズに行くよう工夫している。家族とは日頃から状態報告等、連絡を取り合い、利用者を共に支える良好な関係を築いている。面会時間の制限はなく、出勤前や仕事帰りに気軽に寄れる工夫等、本人、家族の絆を大切に配慮が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を特に設けずいつでも来ていただけるようにし、また家族との外出も続けていただいている。面会者が大勢の時はリビングにスペースを設け、楽しく過ごしていただいている。	事業では家族、親戚、友人等、寄りたい時に、いつでも気軽に寄れる体制を整え、時間的制限は設けていない。入居前から利用していた馴染みの美容院にかかる方や、かかりつけの医師を入居後も継続している方も数名おり、馴染みの人、場所等の関係が途切れることのないよう、要望を聞きながら対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を把握し、情報を共有している。関係がうまくいこう、食席を工夫したり、会話に入ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になった場合は、ダメージを最小限に食い止めるために出来るだけ細かく、本人の状況や情報などを詳しく伝えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中の、言葉や表情などから本人の思いをくみ取ったり、日頃より思いを伝えやすい関係を築いている。、本人の希望や意向を出来る限り実現できるよう努めている。	入居前、介護支援専門員よりの情報や家族の思いをくみ取りながら、言葉や表情、時に話したり・つぶやいたり言葉等を大切に、出来るだけ利用者が、その人らしく暮らしが継続できるよう、日々の関わりの中で思いをくみ取れるよう努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅サービス担当者や本人や、家族から話を聞かせてもらい、入居されてからも毎日の生活の中から把握するよう努めている。	2フロアそれぞれの計画作成者は、自分の使い易いアセスメントを使用し、生活歴や暮らし方を把握して、課題分析している。居宅の介護支援専門員から入所前利用事業所などの情報を得たり、家族の言葉から、利用者が今までの暮らしやこだわりを継続できるよう把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解し、その人の出来る力、分かる力を見つけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から要望や意見などを聞き、日常の関わりの中からの気づきやアイデアなどを職員から聞いている、また職員で行うモニタリングでは、多くの意見を出し合い検討している。	利用者や家族にそれぞれ話を聞き計画作成者が介護計画を作成している。少しでも多くの職員が出席出来る朝の時間帯に、職員参加でモニタリングを行ない、目標達成を確認している。管理者は利用者・家族がサービス担当者会議に参加することは現在難しいと考えている。	管理者は、市内のグループホーム連絡会の会議に参加し「利用者・家族のサービス担当者会議参加について」の話題が出ている事を確認している。今後は、遠方におられても全く事業所に顔を出さない家族がいないという現実から、利用者・家族・成年後見人・職員等関係者が、参加するサービス担当者会議の実現と参加出来る為の工夫などで、より多くの意見や、より良く生活を継続出来るようなさまざまな試みを継続される事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気づきなどを個々のケース記録に記入し、個別の連絡などは連絡ノートに記入し、職員同士情報の共有をし日勤前と夜勤前の申し送りは必ず行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況や、要望に応じ、通院や買い物など必要な支援などに柔軟に対応し、本人やご家族の負担の軽減と満足を高めるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお店などを利用して頂き本人が暮らしを楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望されるかかりつけ医と、協力医のどちらでも医療を受けられるようにしており、かかりつけの医師に往診に来ていただいている利用者もいる。	かかりつけ医師との連携は図れており、往診や必要時の受診をしている。かかりつけ医師以外の受診や家族の送迎等には「受診カード」を作成し、事業所内での生活や排便等の近況をお知らせすることで、利用者が適切な医療を受ける事ができ、家族への支援も行なわれている。訪問看護ステーションの週1回訪問する看護師との継続した連携で、健康管理が行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約をしており、毎週1回の訪問と24時間対応してもらえる体制が確保されており気軽に相談できる関係も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人支援の為の情報を医療機関に提供し、家族との情報交換を頻繁にしながらか速やかな退院の支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に変化がみられた時に、本人、家族と相談し、意向を聞きながら対応している。医師や訪問看護師と連携をとり、情報を共有したり、家族に説明してもらったりしている。	協力医院や訪問看護師と24時間相談体制の対応等連携が出来ている。管理者は、利用者の状態に変化が起きた時、本人・家族と話し合いで「最後までここで生活したい希望」の確認をし、約2ヶ月の終末期の介護を行なった経験もあり記録も残されている。「終末介護に対するマニュアル」があり、職員会議でしっかり現状確認が行われ、家族との「終末期に関する取り交わし書」の確認も取られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時などに備え、年に1回消防署から来てもらい、心肺蘇生、異物除去、AEDの使用法の講習を受け、練習をしている。	年1回消防署の指導の下、異物除去・AEDの使用訓練・心肺蘇生等の応急手当の講習を受講している。「急変時マニュアル」も用意されており、フローチャートが適切に整備されている。急変時や事故発生時・救急車対応時には訪問看護師に電話をするなど、相談体制を利用するときもあり、連携と助言を得ている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回の自主的な消防訓練、年1回の消防署の協力を得ての訓練を行っている。他で災害が起きると職員同士で話し合い、シミュレーションをしている。	最近出された地域のハザードマップの危険場所からは外れた、開けた場所に事業所は立地している。火災・地震・冠水・土砂災害・積雪災害等マニュアルが整備されており、職員同士で話しあっている。	災害時の備蓄品は、2食分の準備が用意されている。今後は、必要な備蓄品の準備とリストの整備が望まれる。また、防災訓練時、地域の方や地域の運営推進会議出席者へ周知行なつて参加を促すなど、地域密着事業所の「利用者が地域と共に生きる」ための工夫が行なわれる事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレへの声のかけ方について、話す速度やボリュームなど工夫して、本人が聞き取りやすいように、また周りの方が聞き苦しくないように心掛けている。	一人ひとりの尊重とプライバシーについて、トイレの誘導時には、他の利用者に聞こえないように声掛けするなど、職員会議の中でも日々確認し、ケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望がなかなか言えない入居者さんに対して、いくつか選択肢をだして本人のやりたいことを導き出す工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のその人の状態などに合わせその人のペースで過ごして頂けるよう柔軟に対応していける支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時間がかかってしまうという理由で職員がすべて着替えを準備してしまっている。本人の好みで選べる方には選んでもらうよう支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなものや食べたいものを聞く回数が減っている。誕生会や行事の時には好きなものを聞くよう努める。 個々の希望を聞いて個別での外食を考える。 食事の準備やかたづけなど、できる方には声をかけ職員と一緒にやっている。	管理栄養士が年に1回継続して訪問している。職員に調理方法や献立へのアドバイスがあり、参考にしている。管理栄養士が作る献立の試食をしながら実践的に学んでいる。評価訪問時も利用者が食べたいと思う食思へ働きかける言葉かけが行なわれており、音楽が流れる中、利用者・職員が和やかに食事されていた。今後も、利用者の持てる力を発揮出来る場面を出来るだけ多くなるよう、支援したいと管理者は思っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が少ない方について、飲み物の種類を増やし、その人に合った飲み物を見つけるようにしている。(コーヒー、ジュース、炭酸飲料など)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに対し、拒否のある入居者さんにはどう対応したらいいか職員同士で話し合っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンをつかみながら時間をみて誘導するようにしている。トイレの場所がわからない方がみつけやすいよう表示を大きくしたり、誘導したりしている。	排泄マニュアルはあり、一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導している。トイレ場所の表示は、とても見やすく配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事で繊維質の多い物や乳製品などを取り入れ、午前中の体操で全員で体を動かし、個々にも運動の声かけなどをし、自然排便の出来る様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応の曜日などを決めているが、本人からの希望があった場合などは、可能な限り希望に添えるように支援し季節に合わせた変わり湯なども工夫している。	入浴マニュアルはあり、月曜日から金曜日の午後週3回を目安に、本人用のシャンプー等の細やかな配慮で入浴を支援しているが、希望により柔軟に対応し工夫がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活リズムを整え、一人一人のその日の体調などに合わせて、本人の好みの場所で休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の内容をすぐ分かるようファイルにし、間違えのないよう朝・昼・夕に袋の色を変え名前を確認し飲み込むまで見ている。症状の変化は主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・片付け・洗い物・掃除・干し物など、その人の得意な所を活かし仕事をお願いし、外出・外食・ボランティア・行事や行事食など楽しみを持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴や散歩に誘う声かけが減っている。声をかけても拒否される方もいるが、可能な限り声かけをしていく。	敷地内にコスモス等々の花を植えおり、気分転換や落ち着かない時、花の成長を見に外に出るなど、日常的な外出や散歩が行なわれている。また、近くに、大型スーパーや衣料店があり、外食や服を見たり、必要時選んだりすることの希望がある。これらの外出が、利用者一人ひとりの楽しみにもなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望があるが自分で行かれないときは、職員が代理として買い物をきて、品物を本人へ渡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のかけ方がわからない時は手伝い、電話の着信音に気が付かない時は声かけをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間などには、ひざ掛けや本、ゆったり過ごせるソファなどを置き、食堂には、いつでもお茶が出せる工夫をし、廊下には季節の花や絵、写真などを飾り、季節感を取り入れている。	季節に合わせた色彩と配色で、出かけた写真や行事の思い出が、見やすい位置に展示されている。テーブルと椅子のコーナーや居心地よさそうなソファのコーナーがあり、どちらにもみんなと共に過ごせる時間と、一人でも過ごすことが出来るような配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにゆったり過ごせるソファや腰のおろせるカーペットを敷いたり、畳の居間を用意したり、玄関にベンチを置いたり好きな所で過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるように、使い慣れた寝具やテレビなどが置かれ、写真や飾り物も本人の好みのものが使われている。	居室にはベット・チェスト・洗面所が基本で事業所で用意され置いてあるが、その方の状況に合わせ、居室フロアに敷物を置き、マットを使用している利用者もおられる。自宅から位牌や自分用の毛布等が持ち込まれ、自宅での生活や暮らしが継続できるよう、暮らしやすいよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の「出来る事」「わかる事」を職員全員が理解し、状態が変わったときには、話し合いをもち、常に安全で自立した生活が送れる環境を作るよう工夫している。		